

*e500*

取扱説明書

# 目次

はじめに .....	4	エフェクトの追加.....	12
正しい電圧設定を選択してください .....	4	シグナルチェーンの編集.....	13
適切な負荷とケーブルでご使用ください.....	4	エフェクトの編集.....	14
適切なMIDIケーブルをご使用ください .....	4	クイック・ポットバインディング.....	15
Exponent 500.....	5	プリセットカラーの選択.....	16
Getting started.....	6	プリセットの保存.....	17
接続.....	6	プリセットのプレビュー、共有、読み込み .....	18
ポテンショメーター .....	6	プリセットのインポート.....	19
プリセットボタン.....	6	Tips and tricks.....	20
ミュートボタン.....	6	クイックエフェクトアクション .....	20
クロマチック・チューナー .....	6	クイックプリセットアクション .....	20
クリッピング・インジケータ .....	7	<b>エフェクト.....</b>	<b>21</b>
クイック・ポット .....	8	Filter .....	21
Darkglass Suiteの使用.....	9	Amp EQ.....	21
Suiteとの接続 .....	9	Darkglass GEQ .....	21
基本的なナビゲーション.....	9	Generic GEQ .....	21
プリセット・ビュー .....	10	Cabsim .....	21
プリセット.....	11	Compression .....	21
プリセットの作成.....	11	FET compressor .....	21
		Distortion.....	22
		Alpha Omicron .....	22
		Microtubes B3K .....	22
		Vintage Microtubes .....	22
		Modulation.....	22
		Mint Chocolate Chorus.....	22
		Flamingo Flanger.....	22
		mo**erf***er .....	23
		Time Modulation .....	23

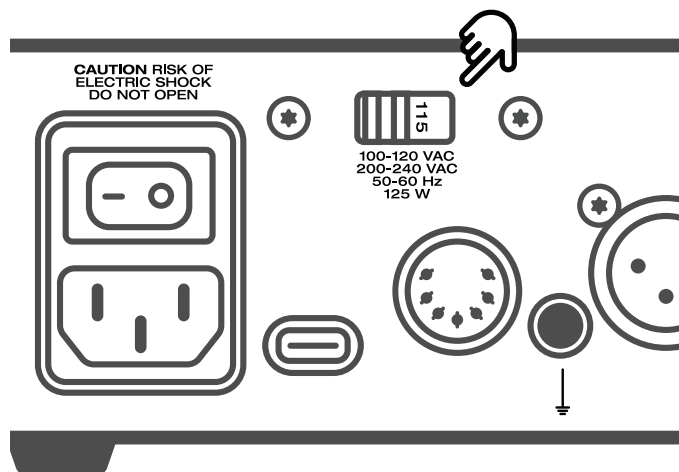
Plate Reverb .....	23
Hall Reverb .....	23
Room Reverb .....	23
Digital Delay .....	23
Preamp .....	23
Leo Bass .....	23
Utility .....	24
suppressor .....	24
<b>MIDI .....</b>	<b>25</b>
MIDI スイッチタイプ .....	25
USB MIDI .....	25
MIDI コンフィギュレーション .....	25
<b>USB オーディオ・インターフェース .....</b>	<b>26</b>
USB オーディオチャンネルルーティング .....	26
<b>Bluetooth オーディオ .....</b>	<b>26</b>
<b>セッティング .....</b>	<b>27</b>
カスタムネーム .....	27
オートスピーカーミュート .....	27
ファームウェア・アップデート .....	27
<b>Technical specification .....</b>	<b>28</b>
<b>Warning .....</b>	<b>29</b>

## はじめに

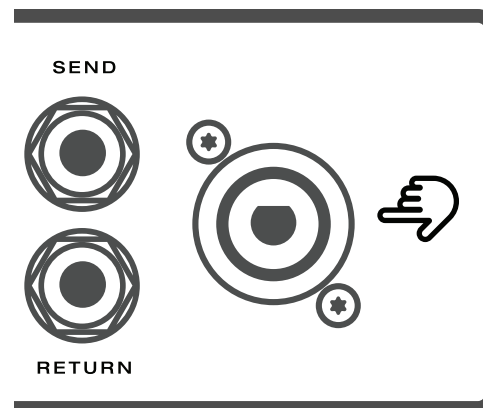
このたびはExponent 500をご購入いただきまことにありがとうございます。  
まず最初に、Exponentアンプをベストな状態で使用するために、以下の項目  
をご確認ください。

### 正しい電圧設定を選択してください

e500を接続する前に、ユニット背面のボルテージセレクターが正しい主電源  
(日本国内使用では「115」側)に設定されていることをご確認ください。



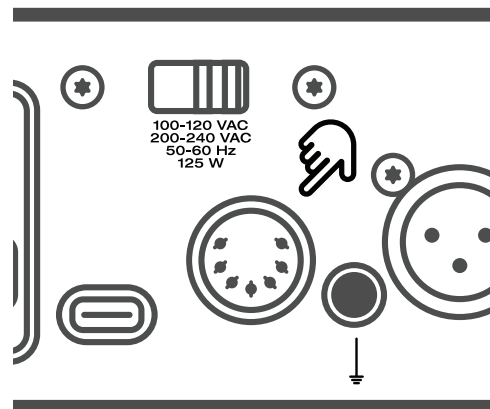
### 適切な負荷とケーブルでご使用ください



スピーカーアウトの最小負荷は4Ωです。スピーカーアウトから他機器への接続  
には、必ずスピーカーケーブルを使用ください。

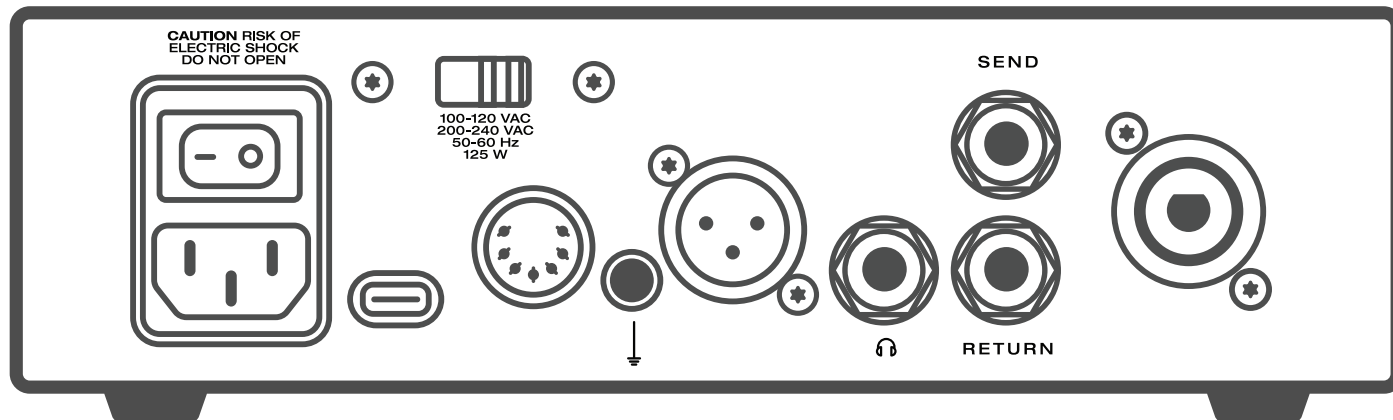
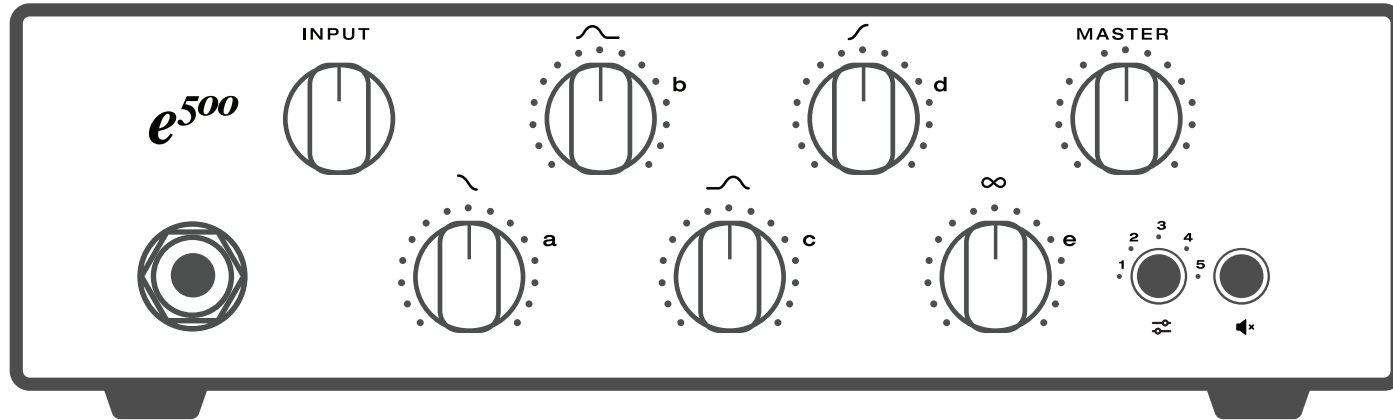
e500はスピーカーキャビネットに接続しなくても動作させることが可能です。

### 適切なMIDIケーブルをご使用ください



7ピンMIDIコネクターは、Darkglass MIDIフットスイッチでのみ使用してください。  
他のMIDI機器との接続には5ピンのMIDIコネクターを使用します。

# Exponent 500



# Getting started

## 接続

楽器用ケーブルを使用してフロントパネルの1/4" メインインプット端子に楽器を接続してください。

以下のいずれか、または複数の機器に接続します。

- ・ミキシングデスクまたはオーディオインターフェース(XLRアウト)
- ・ヘッドホン(ヘッドホンアウト)
- ・アウトボード機器(FXループ)
- ・スピーカーアウトからキャビネットに接続(スピコンコンボジャック)
  - 4Ωミニマムロード
  - スピーカーケーブルには、スピコンまたは1/4" スピーカーケーブルが使用可能です。
  - 楽器用ケーブルは絶対に使用しないでください。

① デフォルトでは、ヘッドホンを接続するとスピーカーアウトはミュートされます。この設定は、Darkglass Suiteで無効にすることができます。

## ポテンショメーター

e500のフロントフェイスには、7つのポテンショメーターがあります。

INPUTポットで入力ゲインを設定、

MASTERポットでマスター・ボリュームを設定します。

XLRアウトはMASTERボリュームの影響は受けません。

残りの5つのポットはExponent 500のクイック・ポットです。

クイック・ポットの変更した設定は自動的に保存されます。

① 各クイック・ポットの現在の設定ポジションは、常にポット周囲のLEDで表示されます。

## プリセットボタン

プリセットボタンを押すと、プリセット1~5+バイパスが切り替わります。現在のプリセットは、プリセットナンバーの横にあるLEDで表示されます。e500がバイパスされると、すべてのプリセットLEDが薄暗い白色で表示されます。

プリセットボタンを長押しすると、Bluetoothペアリングを開始します。ペアリングがアクティブ状態のときは、すべてのプリセットLEDが白色に点滅します。

## ミュートボタン

ミュートボタンを押すと、アンプがミュート状態へと切り替わります。e500がミュートされると、すべてのプリセットLEDが薄暗い赤色に点灯します。

① FXセンドとUSBオーディオアウトは、ミュートコントロールの影響は受けません。

## クロマチック・チューナー

クロマチック・チューナーは、バイパス時、ミュート時ともに常にアクティブで、A0~A#5の範囲でチューニングが可能です。

チューニングしている音は、その音に対応するクイック・ポットのラベルにしたがって表示されます。例えばチューニングAはクイックポットA、チューニングBはクイックポットB、といった具合に表示されます。

- ・チューニングFは、クイックポットAとBで表示されます。
- ・チューニングGは、クイックポットDとEで表示されます。

音がシャープしている場合は、薄暗いプリセットLEDが明るくなります。

## クリッピング・インジケータ

Exponent 500は、シグナルチェーンのどこで信号がクリッピングしているかを示すクリッピング・インジケータを搭載しています。


クリッピングが発生すると、クイック・ポットが赤く点滅します。

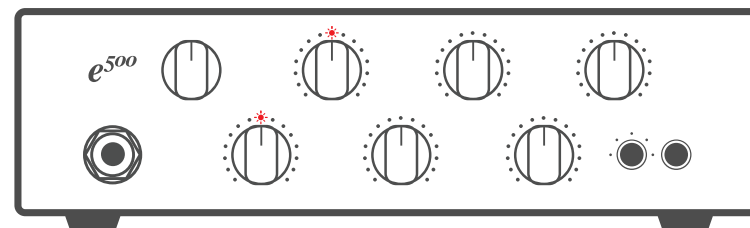
クイック・ポットAとBが赤く点滅したらインストゥルメントインプットでクリッピングが発生しているので、INPUTポットで入力ゲインを下げてください。

クイック・ポットDとEが赤く点滅したらアウトプットでクリッピングが発生しているので、MASTERポットでマスターボリュームを下げてください。

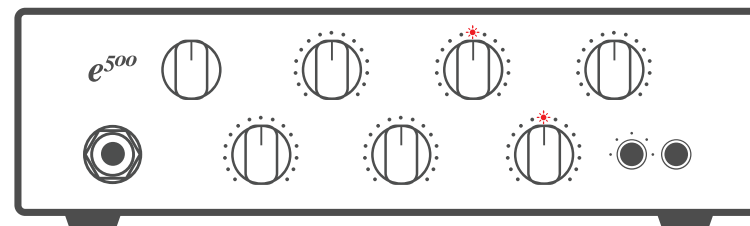
クイック・ポットCとDが赤く点滅したらFXリターンでクリッピングが発生しているので、アウトボードエフェクトの出力音量を下げてください。

クイック・ポットBとCが赤く点滅したら、FXセンドでクリッピングが発生しているので、Darkglass SuiteでFXセンドに送られる信号のレベルを下げてください。

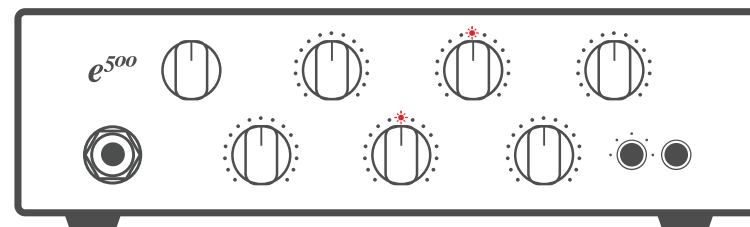
Darkglass Suiteでは、Mixer を使用して各出力とFXセンド/リターンのレベルを個別に調整することも可能です。



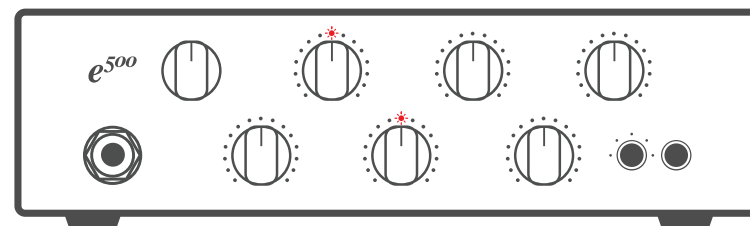
Input Clipping



Output Clipping



Effects Return Clipping



Effects Send Clipping

## クイック・ポット

Exponent 500のフロントパネルには5つのクイック・ポットがあります。

デフォルトでは、これらのポットはAmp EQの4つの周波数バンドとプリセット指定のコントロールにマッピングされています。

Darkglass Suiteを使用すれば、シグナル・チェーンにあるエフェクトから5つのコントロールを選択して、クイック・ポットを自由にバインド(割り当て)することができます。

ポットの周りにはリングLEDが表示されるクイック・ポットの設定は、バインドされているコントロールの種類に依存します。クイック・ポットで表示されるLEDの色は、バインドされているエフェクトの種類によって決定されます。

例えば、Amp EQ のバンドの1つにバインドされたクイック・ポットは、12時の位置が中央となります。ポットを中央より左に動かすとバンドのレベルが下がり、ポットを中央より右に動かすとバンドのレベルが上がります。

FET CompressorのRatio(レシオ)にバインドされたクイック・ポットは、5つのポジションを持つスイッチのように動作します。同様に、バイパスや他のスイッチコントロールも適切なフィードバックを表示します。そしてもちろん、クイック・ポットは従来のポテンシオメーターのように動作させることもできます。

ポット12時位置の中央にあるRGB LEDに色が点灯している場合、クイック・ポットは何かしらの機能にバインドされています。バインディングのないクイック・ポットにはLEDのフィードバックはありません。

クイック・ポットへの変更は、アクティブ状態のプリセットに自動的に保存されません。



Factory 2  
デフォルトのバインディング



カスタムプリセットと  
バインディング



# Darkglass Suiteの使用

Exponent 500には、汎用性の高い5種類のファクトリープリセットがプリロードされています。Darkglass Suiteとe500の併用は必須ではありませんが、お勧めします。

Darkglass Suiteは、各プリセットで実行されているシグナル・チェーンを操作・修正するためのインターフェースを提供し、Exponent 500の潜在能力を最大限に引き出します。

iOS または Android 版の Darkglass Suite を使用して、プリセットの作成、編集、共有などを行います。Darkglass Suite のバージョンが 4.3.0 以降であることをご確認ください。

## Suiteとの接続

プリセットボタンを長押しして、Bluetoothペアリングを開始します。ペアリング中はプリセットのLEDが白色に点滅します。

Darkglass Suiteを開き、“Pair” を押します。しばらくすると、接続されてPedal Boardが表示されます。

## 基本的なナビゲーション

Pedal Boardは、シグナルチェーンの主要な概要であり、プリセットを構築することができます。

1画面に表示されるのは1つのプリセットだけです。画面下部の5つのドットをタッチして切り替えることで、5つのプリセットにアクセスすることができます。

① Tip: アクティブ状態のプリセットのドットを押すと、e500はバイパス・チャンネルへ切り替わります。

信号は、シグナルチェーンの上から下へ流れていきます。まずはシグナルチェーンの一番上にあるエフェクトで処理され、その出力は次のエフェクトに送られて以下同様に処理されていきます。物理的な出力は、FXループ S/R、スピーカーアウト、XLRアウト、ヘッドホン を表す小さなブロックとして表示され





Pedal Board

# プリセット・ビュー

Pedal Boardのプリセット名を押すと、プリセット・ビューが表示されます。これには、すべてのプリセットのリストが含まれます。

デフォルトでは、このリストには工場出荷時のプリセットが含まれています。保存またはインポートした他のプリセットも、このリストに表示されます。

シグナル・チェーンボタン  を押すと、シグナルチェーンの概要に戻ります。

インポートボタン  を押して、プリセット共有コードを使用してプリセットをインポートします。

MyPedal Cloudとのプリセット同期にも順次対応予定です。



プリセット・ビュー

# プリセット

Exponent 500では、各プリセットのシグナル・チェーンを完全に制御することができます。エフェクトの設定、シグナル・チェーン内での配置、出力とFXループのルーティング、クイックポットのバインディング(割り当て)...全てはあなた次第です。

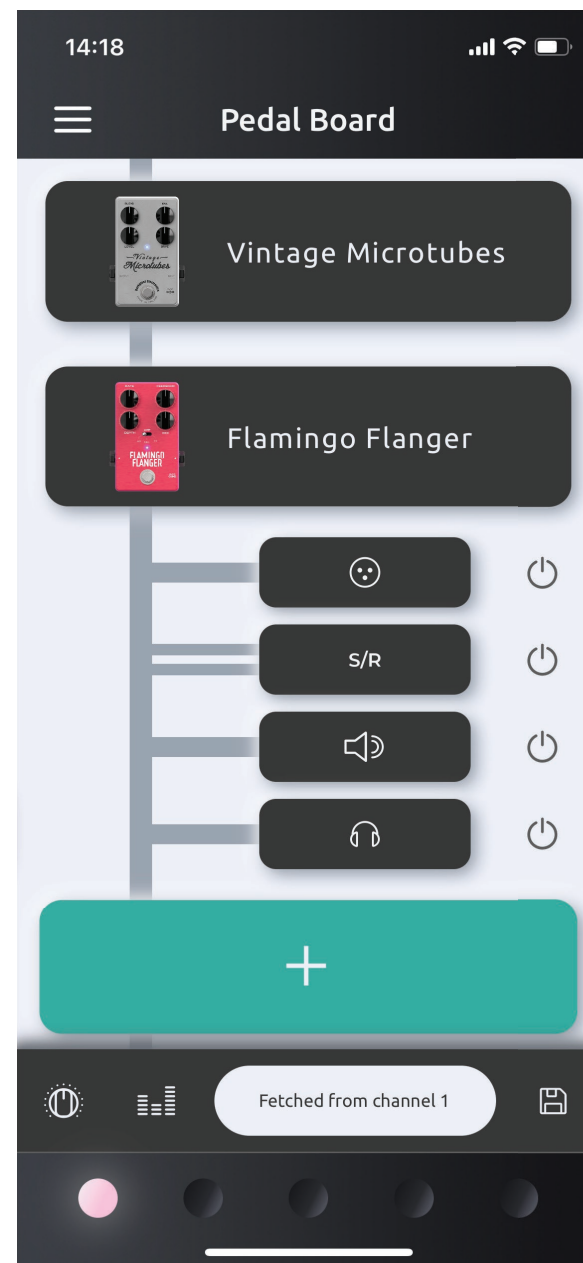
ルールは2つだけです。1つのプリセットにつき最大8つのエフェクトがあり、プリセット内のエフェクトのCPU負荷の合計が100%を超えることはできません。また、各プリセットに追加できるキャビネットシミュレーションエフェクトは1つだけです。

MASTERボリューム・レベルはExponent 500のグローバル・レベルであり、プリセット・データには含まれません。

## プリセットの作成

プリセットを作ってみましょう！この例では、スピードアップのためにすでにVintage MicrotubesとFlamingo Flangerをシグナルチェーンに追加しています。

シグナルチェーンにエフェクトを追加するには、シグナルチェーンの下部にある“+” ボタンを押し、エフェクトのリストをブラウズしてください。



プリセット1の現在のシグナルチェーン

## エフェクトの追加


シグナルチェーンの下部にある“+”を押して、エフェクトリストを開きます。

使用可能な全てのエフェクトがここにリストアップされています。リストをスクロールすると、EQ、コンプレッサー、ディストーション、モジュレーション、ユーティリティが表示されます。

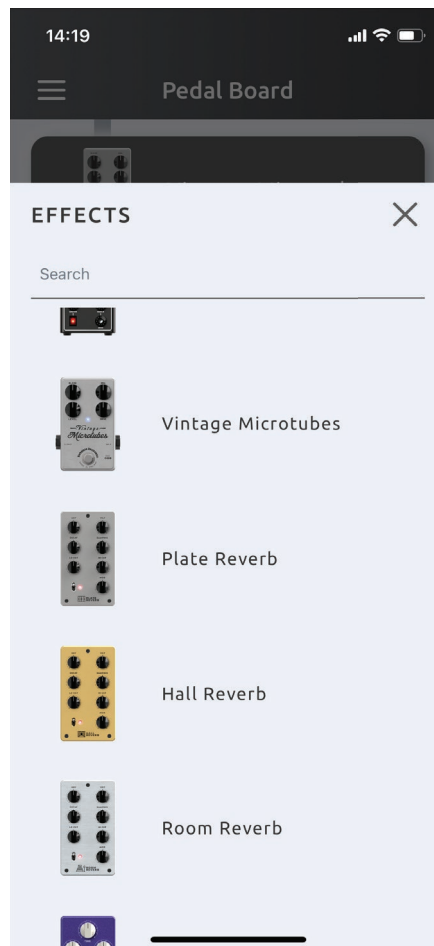
エフェクトの一覧から特定のエフェクトを選択すると、EFFECT EXPLORER(エフェクトエクスプローラー)が表示されます。ここではエフェクトのプレビュー、簡単な説明、このエフェクトをシグナルチェーンに追加する場合のCPU負荷の値が表示されます。

エフェクトは、シグナルチェーンに追加されないと効果が得られず、微調整もできませんのでご注意ください。

① Tip: EFFECT EXPLORER(エフェクトエクスプローラー)を左右にスワイプするとエフェクトを一覧でプレビューすることができます。

Load  ボタンを押して、エフェクトをシグナルチェーンに追加します。

こちらの例では、Hall Reverbをシグナルチェーンに追加しています。



エフェクトリスト



Effect explorer  
(エフェクトエクスプローラー)


## シグナルチェーンの編集

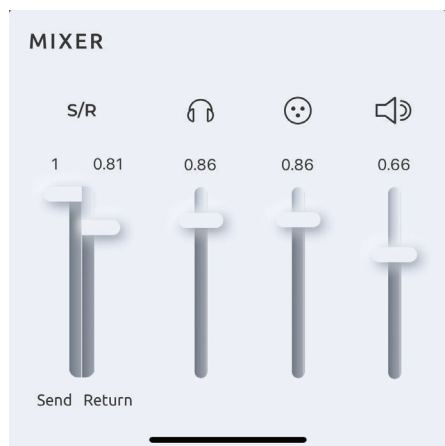
デフォルトでは、シグナルチェーンに追加されたエフェクトは、シグナルチェーンの最上部に配置されます。

各ブロックをドラッグ&ドロップすることで、エフェクトやアウトプット/FXループの配置を移動させることができます。

この例では、Hall ReverbがXLRアウトの後段に移動しています。つまり、XLRアウトに送られた信号は、Vintage Microtubes と Flamingo Flangerだけでエフェクト処理された信号です。

この信号がホールリバーブで処理され、FXループ、スピーカーアウト、ヘッドホンアウトに送られることとなります。

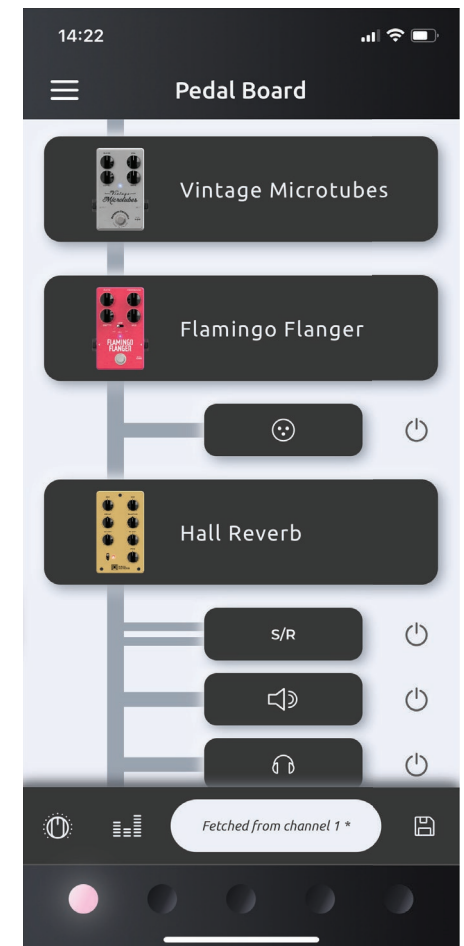
ミキサーを使用して、各出力とFXセンド/リターンのレベルを設定します。ミキサーの設定は、各プリセットごとに別々に設定することができます。



Mixer



デフォルトの配置




リバーブをチェーン内で移動

## エフェクトの編集

シグナルチェーン内の任意のエフェクトをタップして、エフェクトビューを表示させることができます。

EFFECT VIEW(エフェクトビュー)では、現在のシグナルチェーン上のエフェクトを操作することができます。Suiteで行われた変更は、Exponent 500上でリアルタイムに更新されます。


エフェクトビューを上下にスワイプすると、シグナルチェーンの各エフェクトを表示、編集することができます。

現在のエフェクトの CPU 負荷  が、現在のプリセットの合計 CPU 負荷とともに表示されます。

リセットボタン  を押すと、エフェクトの設定が初期化されます。

① Tip: エフェクトビューの下部にあるエフェクト名を押すと、その場でエフェクトが入れ替わります。

クイック・ポットでエフェクトを更新したり、プリセットボタンでプリセットを変更しても、Suiteでは自動的に更新されませんのでご注意ください。Exponent 500から最新の変更を取り込むためには、Suiteのシグナルチェーン画面をプル・トゥ・リフレッシュして手動で更新するか、スイートでプリセットを変更してください。

バインディングボタン  を押して、クイック・ポットバインディングにアクセスします。



EFFECT VIEW  
(エフェクトビュー)

## クイック・ポットバインディング

バインディングボタン  を押すと、QUICK-POT BINDING(クイック・ポットバインディング)ビューにアクセスします。

ここでは、シグナルチェーンから5つのコントロールを選択し、Exponent 500のフロントパネルにバインドすることができます。

上下にスワイプして、シグナルチェーンからエフェクトを選択します。

コントロールの上をタップするとバインディングメニューが表示されます。バインディングメニューでは、コントロールをどのクイック・ポットにマッピングするかを選択することができます。

この例では、Vintage MicrotubesのDRIVEがクイック・ポット“e”にバインドされています。

① Tip: バインドされたクイック・ポットをタップすると、バインドビューでそのエフェクトにジャンプします。

クイック・ポットのバインドを解除するには、バインドされているコントロールをタップして、バインドメニューからバインド解除を選択します。



バインディングメニュー



バインディングメニュー

## プリセットカラーの選択

プリセットには、それぞれ固有の色が割り当てられています。

画面下部のプリセットのドットを長押しすると、カラーセレクションが表示されます。

カラーの変更は自動的に適用され、Exponent 500に保存されます。

プリセットがアクティブになると、フロントパネルのプリセットLEDに指定のカラーが表示されます。




プリセットカラーの選択



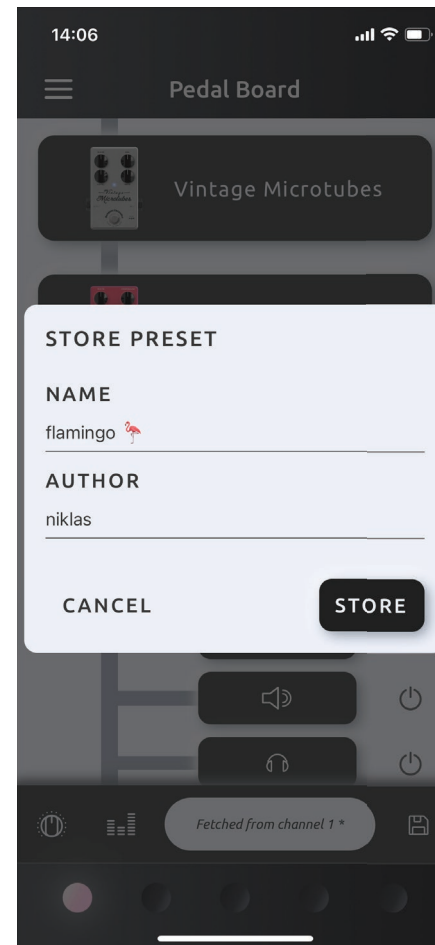
## プリセットの保存

Exponent 500で直接行ったプリセットや変更は、自動的にExponent 500の内部メモリに保存されます。

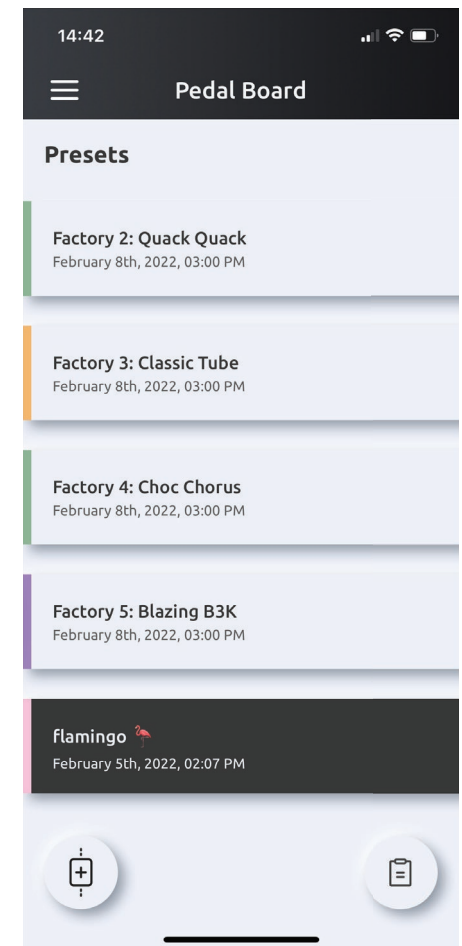
Exponent 500には5つのプリセット・チャンネルがありますが、Darkglass Suiteにはそれ以上の数のプリセットを保存することができます。これらのプリセットは、Exponent 500のプリセット・チャンネルのいずれかに適用したり、プリセット共有コードで共有したりすることができます。

ペダルボードからStoreボタンを押すとプリセットビューにプリセットが保存されるので、プリセットに名前と作者を入力して“Store”を押します。

シグナルチェーンの構成、エフェクトの設定、アウトプットとFXループのルーティング、クイック・ポットバインディング、プリセットカラー、ミキサー設定がプリセットに保存されます。



プリセットの保存



プリセットビュー内の  
保存したプリセット

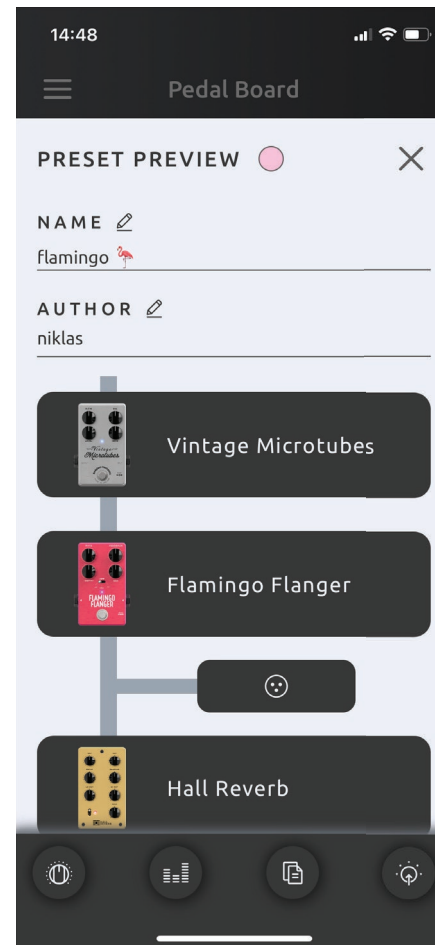
## プリセットのプレビュー、共有、読み込み

プリセットビューから、保存されているプリセットをタップすると、プリセットプレビューが表示されます。これにより、プリセットのシグナルチェーン、クイック・ポットバイディング、ミキサー設定をプレビューすることができます。プリセット名と作者名は変更することもできます。

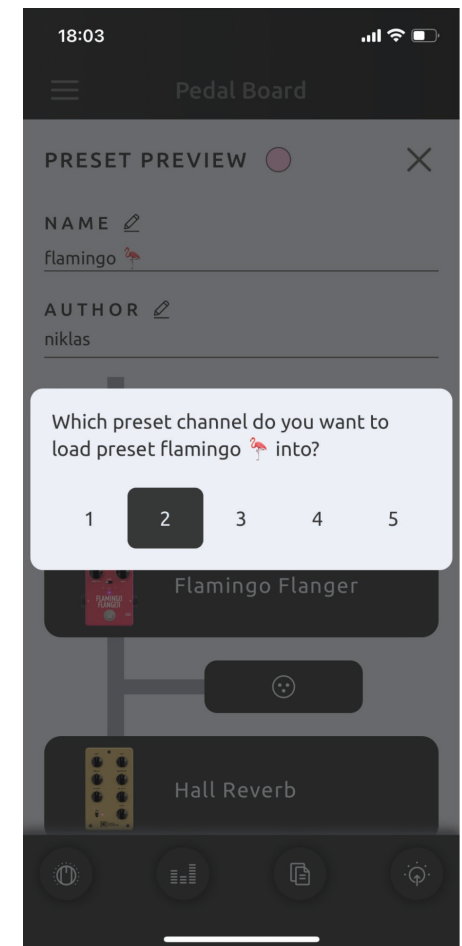
プリセットは、他の人と共有することができます。コピーボタンを押すと、プリセットの共有コードが生成されます。このコードは自動的にクリップボードにコピーされます。

① Tip: プリセット共有コードは、オフラインのバックアップとしても機能します。

ロードプリセットボタンを押すと、プリセットを任意のプリセットチャンネルにロードすることができます。プリセットをロードすると、Exponent 500は自動的に正しいプリセットチャンネルに変更されます。




PRESET PREVIEW  
(プリセットプレビュー)






プリセットの読み込み

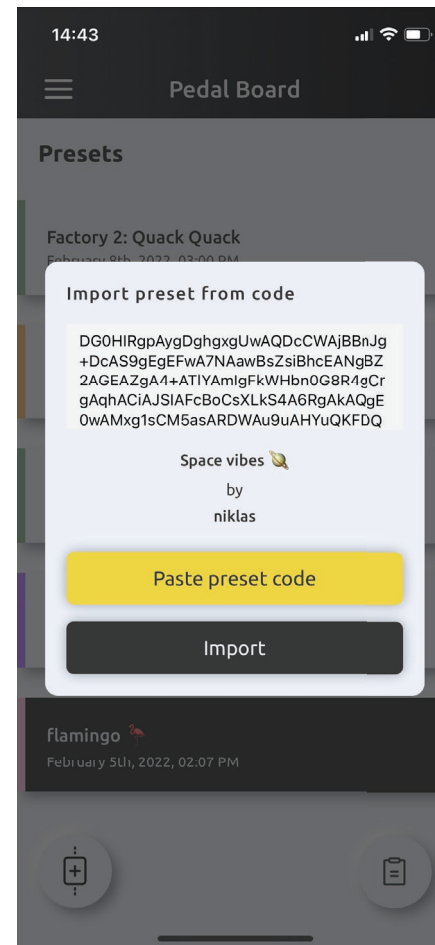
## プリセットのインポート

プリセットビューのインポートボタンで、プリセット共有コードでプリセットをインポートします。

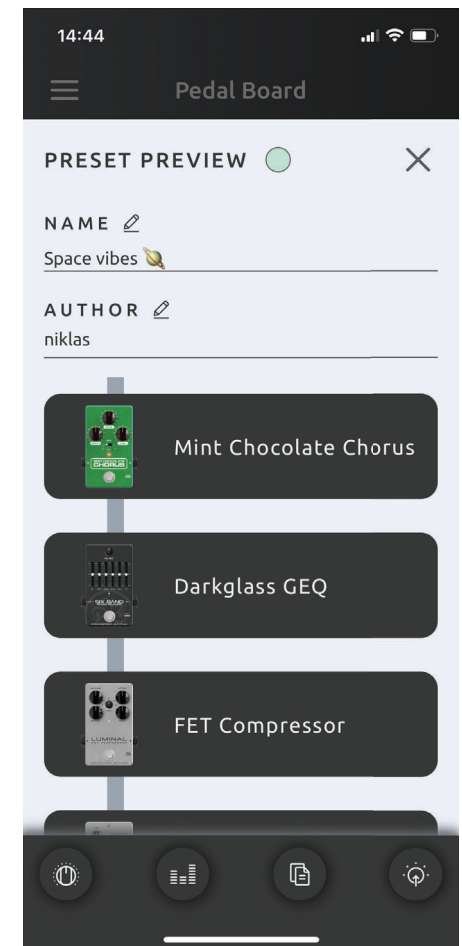
プリセット共有コードがクリップボードにある場合は、“Paste preset code”を押してコードを入力します。貼付後、プリセットの名前と作者が表示されます。

“Import”を押すとプリセットプレビューが表示され、プリセットの名前と作者、シグナルチェーン、クイック・ポットバインディング、ミキサー設定をプレビューすることができます。

Store ボタンを押して、プリセットをプリセットリストに保存します。




プリセットのインポート




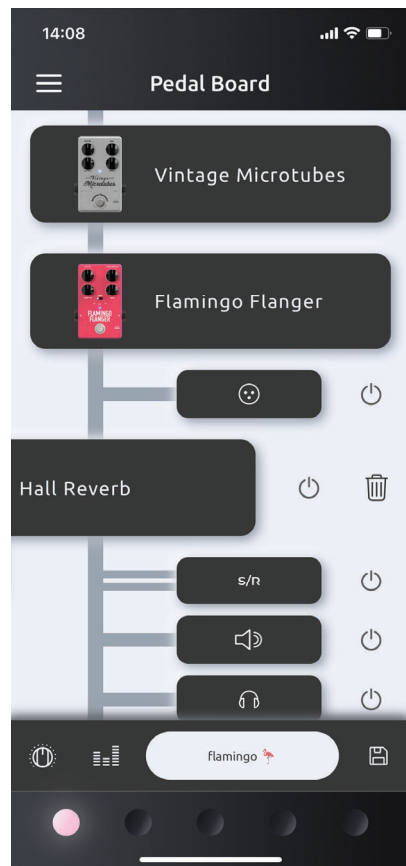
インポートした  
プリセットのプレビュー

## Tips and tricks

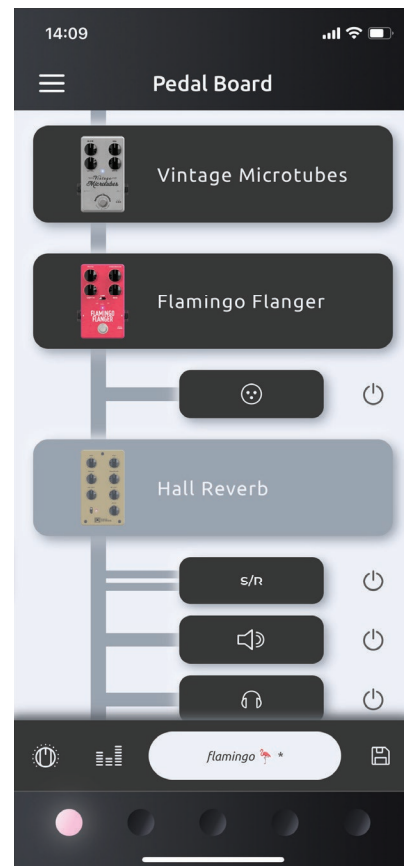
### クイックエフェクトアクション

エフェクトを左にスワイプしてBypassボタン  を押すことで、エフェクトを素早くバイパスすることができます。これは、エフェクトビューでエフェクトをバイパスするのと同じです。

シグナルチェーンからエフェクトを削除するには、delete ボタン  をクリックします。





左にスワイプしてバイパス/削除

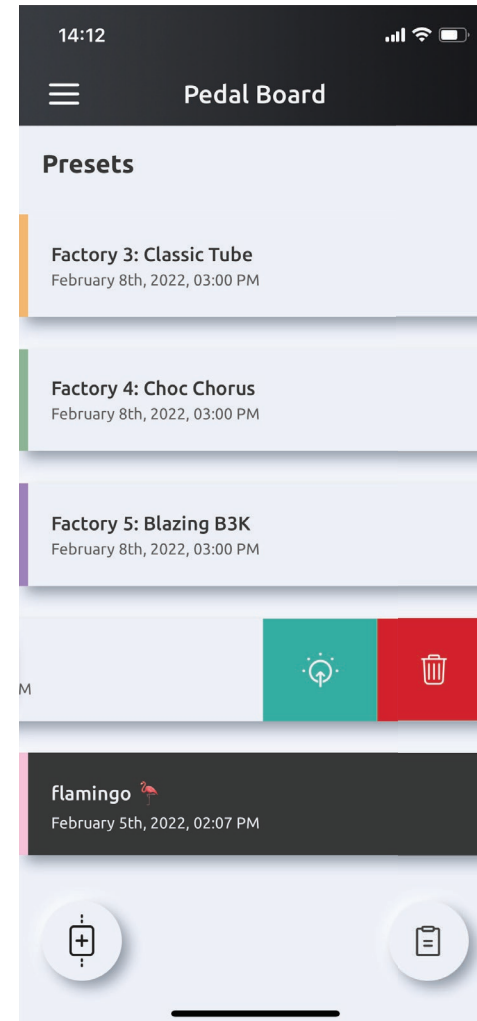


バイパスされたエフェクト

### クイックプリセットアクション

プリセットビューで保存されたプリセットを左にスワイプすると、プリセットを素早くロード  したり、プリセットリストから削除  することができます。

ファクトリープリセットの削除はできません



左にスワイプしてプリセットのロードまたは削除

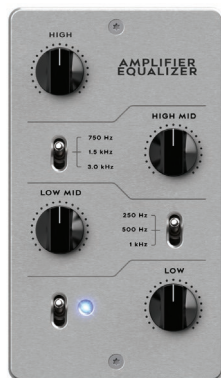
# エフェクト

エフェクトは種類ごとに分類され、クイックポット上ではLEDのカラーで識別することができます。

以下のリストは、Exponent 500 ファームウェア1.0に含まれるすべてのエフェクトを分類したものです。

## Filter

Filterエフェクトはシアンカラーを使用しています。



### Amp EQ

ローミッドとハイミッドのバンドを選択可能な4バンド DarkglassアンプEQ。



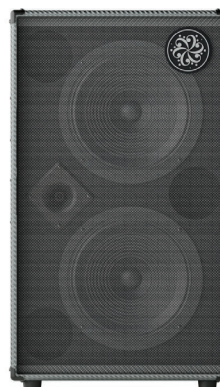
### Darkglass GEQ

Darkglass独自のバンド設定による6バンドグラフィッククイコライザー。



### Generic GEQ

汎用性の高いバンド設定による6バンドグラフィッククイコライザー。



### Cabsim

キャビネットのライブラリから選択、または自身のキャビネットをアップロードしてください。

## Compression

Compressionエフェクトはイエローカラーを使用しています。



### FET compressor

ダイナミクスにクラシカルでタイムレスな要素を追加します。

## Distortion

Distortionエフェクトはパープルカラーを使用しています。



### Alpha Omicron

骨太なサウンドを実現するAlpha・Omegaのディストーションエンジンを搭載しています。



### Microtubes B3K

破壊力のあるハードな歪みとクリアなトーンの完璧なコンビネーションを実現したディストーション。



### Chinchilla

密度の濃いクランチーなディストーション。



### Vintage Microtubes

ロック史上最も伝説的なサウンドへのトリビュート。暖かみのあるチューブライクなトーン。

## Modulation

Modulationエフェクトはグリーンカラーを使用しています。



### Mint Chocolate Chorus

RATE、DEPTH、MIXコントロールに3段階で切替可能なフィルターを搭載。



### Flamingo Flanger

RATE、DEPTH、MIX、FEEDBACKコントロールに3段階で切替可能なフィルターを搭載した汎用性の高いフランジャー。



### mo\*\*erf\*\*\*er

クラシックなエンベロープ・フィルター。



### Room Reverb

減衰の短い空間内でサウンドを際立たせるリバーブ。

## Time Modulation

Time Modulationエフェクトはライトミントカラーを使用しています。



### Plate Reverb

クラシックなプレートリバーブを模したスタイル。



### Digital Delay

コントロールの自由度の高いデジタル・ディレイ。

## Preamp

Preampエフェクトはオレンジカラーを使用しています。



### Hall Reverb

サウンドに重厚な空間をプラスします。



### Leo Bass

3バンド・イコライザーとボリューム・コントロールを備えたチューブ・プリアンプ。

## Utility

Utilityエフェクトはホワイトカラーを使用しています。



### **suppressor**

スレッシュホールドとLess/Moreコントロールを備えたノイズサプレッサー。



# MIDI

Exponent 500は、バックパネルのコネクターからのMIDI入力と、USB経由でのMIDI入出力をサポートしています。

7ピンMIDIコネクターは、Darkglass MIDIフットスイッチとの接続でのみご使用ください。他のMIDI機器には5ピンのMIDIコネクターを使用します。

Exponent 500のMIDIは、本体を実際に操作しているのと同じように機能します。プログラム・チェンジ(PC)メッセージはプリセットの選択、バイパス、ミュートに使用され、コントロール・チェンジ(CC)メッセージはクイック・ポットとマスター・ボリュームのコントロールに使用されます。

## MIDI スイッチタイプ

MIDIスイッチのタイプは、スイッチとしてバインドされたクイックポットがどのように反応するかを決定します。

バリューごと: CCバリューの増加で次のスイッチポジションを設定

フルレンジ: CCの全範囲(0~127)がスイッチポジションに直接変換されます

## USB MIDI

USB MIDI INは、バックパネルのコネクターから受信したMIDIと同じ動作をします。

クイック・ポットとマスターボリュームの変更は、USB MIDI OUTからCCメッセージとして送信され、設定されたMIDIマッピングにマッチします。

任意のMIDIインプットからのSysExメッセージも、USB MIDI OUTにパスされます。

## MIDI コンフィギュレーション

Exponent 500のMIDIコンフィギュレーションは、Darkglass Suiteで完全にカスタマイズすることが可能です。デフォルトのMIDIコンフィギュレーションは以下の通りです。

Control	Default
Channel	Omni (responds to all)
Switch type	Per-value
Bypass	PC 0
Mute	PC 1
Preset 1	PC 2
Preset 2	PC 3
Preset 3	PC 4
Preset 4	PC 5
Preset 5	PC 6
Quick-Pot A	CC 0
Quick-Pot B	CC 1
Quick-Pot C	CC 2
Quick-Pot D	CC 3
Quick-Pot E	CC 4
Master volume	CC 5

## USB オーディオ・インターフェース

Exponent 500は、USBオーディオ・インターフェースとして使用することができます。サンプルレートは、48kHzと44.1kHzに対応しています。

Macをご使用の場合、Exponent 500をオーディオ・インターフェイスとして使用するために追加のドライバーは必要ありません。

Windowsをご使用の場合は、<https://www.darkglass.com/suite/> から最新のUSBオーディオドライバーをダウンロードしてください。すでにドライバーをインストール済の場合は、ドライバーのバージョンが5.30以上であることを確認してください。

### USB オーディオチャンネルルーティング

Ch	Input (e <sup>500</sup> → PC)	Ch	Output (e <sup>500</sup> → PC)
1	Processed signal	1	Headphones left
2	Unprocessed raw signal	2	Headphones right
3	Bluetooth left	3	Virtual input
4	Bluetooth right	4	XLR output

処理された信号のインプットは、シグナルチェーンの一番端にある信号です。

バーチャルインプットは、DAWからのリアンプに使用することができます。このチャンネルにパスされたオーディオは、インストゥルメント・インプットとミックスされます。

## Bluetooth オーディオ

BluetoothオーディオをExponent 500にストリーミングすることができます。Bluetoothオーディオは、ヘッドホン出力に送られます。

Exponent 500がまだデバイスとペアリングされていない場合、プリセットボタンを長押ししてペアリングを開始します。ペアリング中は、すべてのプリセットLEDが白色に点滅します。

ペアリングが完了したら、音声で接続するには、お使いの機器のBluetoothペアリングメニューからExponent 500を選択します。e500のオーディオプロファイルは、このメニューで名前を変更することもできます。

デバイスのメディア出力ボリュームがミュートになっていないことを確認し、演奏する準備をしましょう。

Bluetoothのオーディオストリーミングには、A2DP規格が使用されています。

システムのBluetoothメニューでは、Darkglass SuiteとBluetoothオーディオ接続は、2つの別々のインスタンスとして表示されます。

# セッティング

セッティングメニューには、Exponent 500を設定するためのオプションがいくつか用意されています。

## カスタムネーム

ネームフィールドを編集して、Exponent 500にカスタムネームをネーミングします。ネームの変更を有効にするには、e500の電源を一度OFFにし、再度ONにする必要があります。

## オートスピーカーミュート

初期設定では、ヘッドホンを接続するとスピーカーアウトはミュートされます。ヘッドホンを外すと、ミュートが解除されます。

この動作は、“Mute speaker when using headphones”のオプションで無効にすることができます。無効にした場合、ヘッドホンを接続してもスピーカーアウトの動作には影響しません。

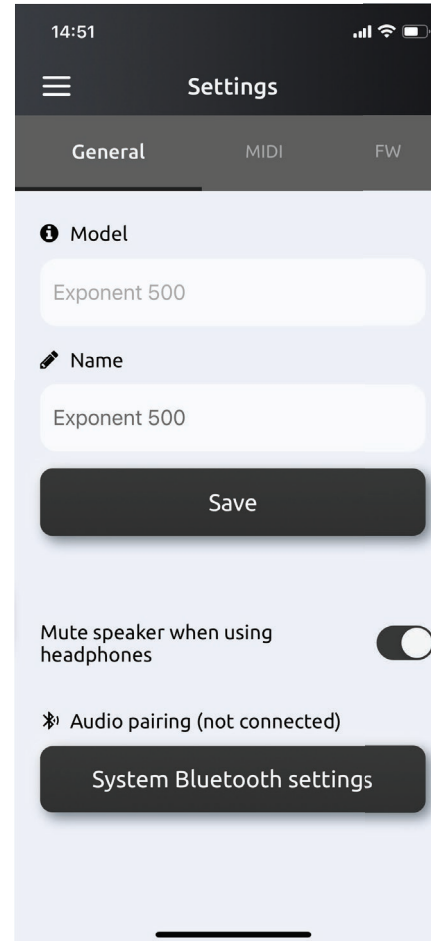
この設定が無効の状態ではヘッドホンを接続すると、スピーカーはミュートされません。

## ファームウェア・アップデート

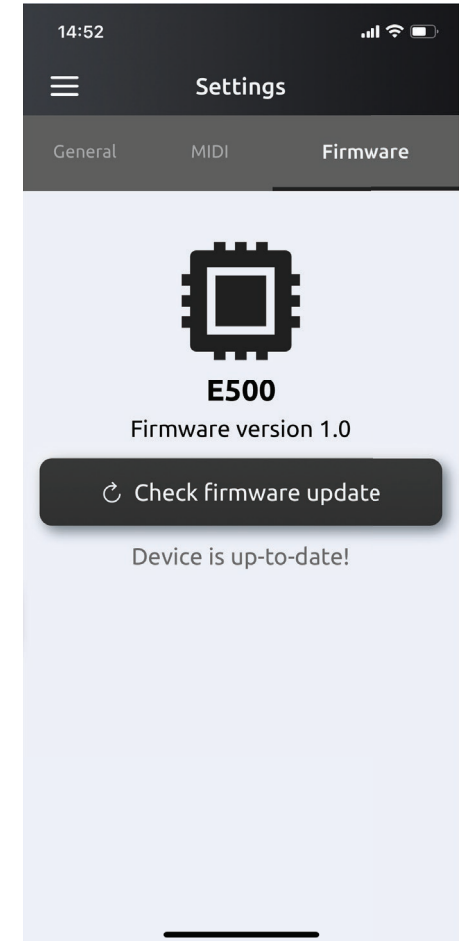
Exponent 500はBluetooth経由でのファームウェアアップデートに対応しています。

Darkglass Suiteは、利用可能なファームウェアの更新を自動的に通知します。

アップデート中は、Exponent 500の接続を外したり、Suiteを閉じたりしないでください。アップデート後、Exponent 500は自動的に再起動します。



Settings / General



Settings / Firmware update

# Technical specification

- Dimensions: 21 x 17.5 x 6 cm (8.3" x 6.9" x 2.4" )
- Weight: 1.65 kg (3.64 lbs)
- Fully digital audio processing
- Can be operated without a cabinet
- 500 watt amplification, voltage selector for 100-120 / 200-240 VAC, 50-60 Hz
- ¼" instrument input
  - Input impedance: 1MΩ
  - Maximum input level at minimum gain before clipping: 19.5 dBu (7.3 Vrms)
- Input gain potentiometer
  - 40 dB of gain
- Six digitally read potentiometers
  - Five Quick-Pots and the master volume
- USB-C
  - MIDI in/out
  - Audio interface
    - 4 input channels and 4 output channels
    - 48 kHz or 44.1 kHz sample rate
- Bluetooth (BLE and A2DP)
- MIDI input
  - 7-pin DIN connector only with Darkglass MIDI footswitch
  - 5-pin DIN connector with other MIDI equipment
- Effects loop
  - Maximum send level before clipping: 12.8 dBu (3.4 Vrms)
  - Maximum return level before clipping: 12.8 dBu (3.4 Vrms)
- Headphone output
  - Maximum output level before clipping: 13.3 dBu (3.6 Vrms)
  - Output impedance: <math><1\Omega</math>
- Speaker output
  - speakON / ¼" combo jack
  - Minimum load impedance: 4Ω
- XLR direct out, unaffected by master volume
  - Maximum output level before clipping: 2.2 dBu (1 Vrms)
- Chromatic tuner, notes between A0 and A#5
- Fan cooling, 1600 to 3800 RPM

※ 製品の改良等により、予告なく仕様に変更となることがございます。予めご了承ください。

※ 正規輸入品以外は保証・修理の対象外となりますのでご注意ください。

# Warning

アンプを分解しないでください。

高温な場所や液体の近くでは絶対に使用しないでください。

Exponent 500が発生させる音圧は、場合によっては聴覚に深刻なダメージを与える可能性があります。設定を含め適切な聴覚保護を行ってください。

Exponent 500は、500W以上の出力が可能です。この出力を許容できるスピーカーキャビネットをご使用ください。

通気孔を塞がないでください。ファンや通気孔は、アンプの冷却システムの一部です。通風孔を塞ぐと、パワーアンプがオーバーヒートしてダメージを受ける可能性があります。

楽器用のシールドケーブルをスピーカーケーブルの代わりに使用しないでください。楽器用のシールドケーブルは、アンプからスピーカーに送られるような大電流の信号を供給できるようには設計されていません。

*e500*

——— 正規輸入代理店 ——

**株式会社 キョーリツコーポレーション**

〒468-0002

愛知県名古屋市天白区焼山 1 丁目 813 番地

E-MAIL : support@kyoritsu-group.co.jp